

平成22年10月28日(木)

**平成23年3月期
第2四半期
決算概要**

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

1. 業績概要 (平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2 参照)

(単位：億円)

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額	23年3月期 第2四半期 前回予想
売上高	2,018	2,243	225	2,200
営業利益	80	104	24	100
経常利益	72	108	36	90
四半期純利益	40	63	23	50
為替レート (円/US\$)	95.53円	88.90円		
為替レート (円/EUR)	133.21円	113.80円		

- ◎ 売上高は前年同四半期に対し225億円・11.1%の増収となりました。
- ◎ 利益は前年同四半期に対して営業利益で24億円・30.3%、経常利益で36億円・49.5%、四半期純利益で23億円・57.7%の、それぞれ増益となりました。
- ◎ 為替は対ドル、ユーロともに円高となり、前年同四半期に対して売上高で△61億円、営業利益で△20億円の影響がありました。

2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
化成品	38,540	42,802	4,262	548	697	148
機能性樹脂	31,168	35,249	4,081	4,919	4,232	△ 686
発泡樹脂製品	26,533	28,727	2,193	2,514	2,895	381
食品	59,127	60,097	970	4,186	3,973	△ 212
ライフサイエンス	17,900	23,023	5,122	1,948	4,188	2,239
エレクトロニクス	18,141	20,441	2,300	△3,372	△2,390	981
合成繊維、その他	10,398	13,964	3,566	627	587	△ 40
調整額	—	—	—	△3,351	△3,734	△ 383
計	201,810	224,307	22,496	8,020	10,448	2,427

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前年同四半期はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

◎ 売上高は7セグメント全てが増収となりました。営業利益では化成品、発泡樹脂製品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの4セグメントが増益ないし営業損失が減少、それ以外の3セグメントは減益となりました。

◎ 当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・ 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移した一方、原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正にも注力しました。塩ビ系特殊樹脂は、販売数量の増加、コストダウン等が寄与しましたが、か性ソーダは、海外市況の低迷が続きました。以上の結果、当セグメントの売上高は42,802百万円と前年同四半期と比べ4,262百万円（11.1%増）の増収となり、営業利益は697百万円と前年同四半期と比べ148百万円の増益となりました。

- ・ **機能性樹脂事業**

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要が回復し、販売数量が前年同四半期を上回る中、製品差別化力の向上及びコストダウンにも努めましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受けました。変成シリコンポリマーは、日本及び欧米市場の販売数量が増加しましたが、同様に原燃料価格の上昇及び円高の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 35,249 百万円と前年同四半期と比べ 4,081 百万円（13.1%増）の増収となり、営業利益は 4,232 百万円と前年同四半期と比べ 686 百万円の減益となりました。

- ・ **発泡樹脂製品事業**

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産用途の需要が低調に推移しましたが、原燃料価格の上昇に対応した製造コストダウンや経費削減に徹底して取り組みました。押出發泡ポリスチレンボードは、国内住宅用途の販売数量が増加しました。ビーズ法発泡ポリオレフィンは、日本・アジア・欧州市場の販売数量が増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 28,727 百万円と前年同四半期と比べ 2,193 百万円（8.3%増）の増収となり、営業利益は 2,895 百万円と前年同四半期と比べ 381 百万円の増益となりました。

- ・ **食品事業**

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景に需要が伸び悩む中で、競争激化に伴う販売価格の下落と油脂原料価格の上昇の影響を受けましたが、新製品拡販などにより販売数量は前年同四半期を上回り、コストダウン等による収益確保に注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 60,097 百万円と前年同四半期と比べ 970 百万円（1.6%増）の増収となり、営業利益は 3,973 百万円と前年同四半期と比べ 212 百万円の減益となりました。

- ・ **ライフサイエンス事業**

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大しました。医薬バルク・中間体は、販売数量が前年同四半期を大きく上回りました。機能性食品素材は、米国市場を中心に既存品・高機能品ともに販売数量が増加し、同時にコストダウンにも注力しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 23,023 百万円と前年同四半期と比べ 5,122 百万円（28.6%増）の増収、営業利益は 4,188 百万円と前年同四半期と比べ 2,239 百万円の増益となりました。

- ・ エレクトロニクス事業

液晶関連製品は、販売が低調に推移したものの、超耐熱性ポリイミドフィルムは、携帯電話用途など対象市場の需要拡大に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、日本及び欧州市場の販売数量が増加しましたが、競争の激化に伴う販売価格下落の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 20,441 百万円と前年同四半期と比べ 2,300 百万円（12.7%増）の増収、営業損失は 2,390 百万円と前年同四半期と比べ 981 百万円減少しました。

- ・ 合成繊維、その他事業

合成繊維は、海外需要の回復により販売数量が増加するとともに、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けました。また、その他事業は、売上高、収益ともに増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 13,964 百万円と前年同四半期と比べ 3,566 百万円（34.3%増）の増収、営業利益は 587 百万円と前年同四半期と比べ 40 百万円の減益となりました。

3. 海外売上高の状況

（単位：億円）

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額	増減率
アジア	303	355	52	+17.2%
北米	117	155	38	+32.1%
欧州	174	208	34	+19.5%
その他	70	91	21	+29.4%
海外売上高計 (海外売上高比率)	664 (32.9%)	808 (36.0%)	144	+21.7%

- ◎ 中国をはじめとするアジア圏の景気回復に伴い、アジアの売上高が増加、欧米についても需要が回復基調となりモディファイヤーなどの販売が拡大、全地域で増収となりました。海外売上高は前年同四半期に対して144億円増加し、海外売上高比率も前年同四半期32.9%に対して36.0%と上昇しました。

4. 連結貸借対照表

(平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信【添付資料】P. 6・7 参照)

(単位：億円)

		22年3月期末	23年3月期 第2四半期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,123	42
	固定資産等	2,247	2,305	57
	合計	4,329	4,428	100
負債	有利子負債	636	667	31
	その他	1,121	1,204	83
	合計	1,757	1,871	114
純資産	自己資本	2,494	2,473	△ 21
	少数株主持分 他	78	85	7
	合計	2,572	2,558	△ 14
負債、純資産 合計		4,329	4,428	100
有利子負債		636	667	31
D/Eレシオ		0.25	0.27	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、主として連結の範囲の変更に伴い、前連結会計年度末に比べ100億円増加し、4,428億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、31億円増加し667億円となりました。
- ◎ 純資産は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定の減少等により、14億円減少し2,558億円となりました。

5. 連結キャッシュ・フロー計算書（平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信【添付資料】P. 9参照）

（単位：億円）

	22年3月期 第2四半期	23年3月期 第2四半期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	310	205	△ 105
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 117	△ 191	△ 74
フリー・キャッシュ・フロー	193	15	△ 179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 124	△ 12	112
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額)	72	4	△ 68
現金及び現金同等物の四半期末残高	325	409	84

- ◎ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等によりプラス 205 億円、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得や子会社株式の取得による支出等によりマイナス 191 億円、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払等によりマイナス 12 億円となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第 2 四半期連結会計期間末残高は、409 億円となりました。

6. 業績予想（平成 23 年 3 月期 第 2 四半期決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 3参照）

前回発表予想

（単位：億円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
通期	4,500	230	210	110

- ◎ 当第 2 四半期連結累計期間の事業環境は、アジア市場の需要拡大及び欧米市場の需要回復を中心に改善が進んだものの、足元の経済情勢は、円高の進行と日本の景気後退、欧米の景気減速懸念や新興国の経済動向など、先行きの不透明感が高まっております。このような状況をふまえ、当社グループは、引き続き各事業において、販売数量増大のための施策及び製造コストや経費の削減等の収益確保策に徹底して取り組んでまいります。
- なお、通期の連結業績予想につきましては、変更しておりません。

以上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。